

渇水への ダム効果

20年ぶりの小雨から胆沢平野の稲作を救った 胆沢ダム

～平成6年(近年最大渇水)よりも厳しい状況を胆沢ダムで乗り切る～

胆沢ダム 位置図



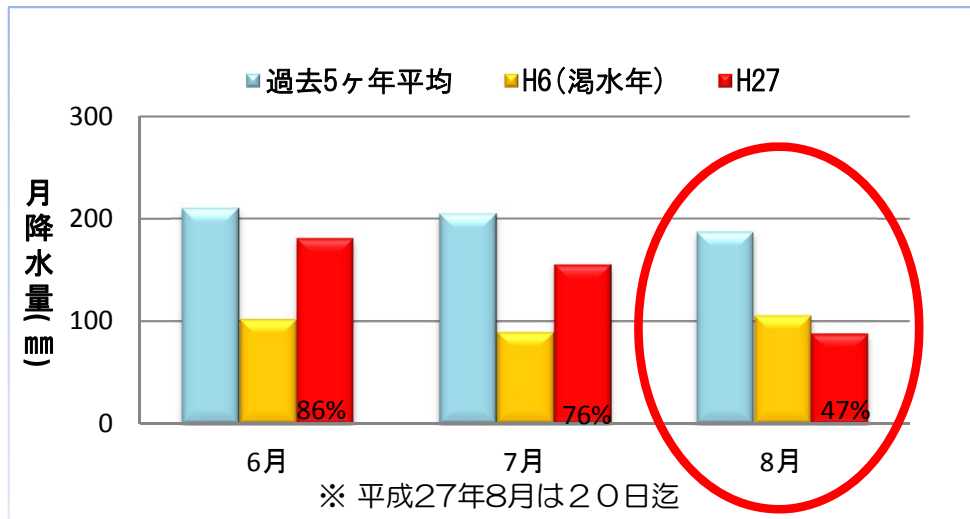
利水容量 石淵ダム(636万m3)
胆沢ダム(8,100万m3)

水稻立枯・水田ひび割れした 胆沢平野(H6渇水)



ダム流域の6月～7月の降雨は過去5年平均を下回り、特に「稲の穂が出る一番大切な8月の降雨(中旬迄)」は、H6年を下回った。

平成27年 胆沢ダム流域の降雨状況 (流域平均雨量)



干上がった石淵ダム(H6渇水)



消防ポンプによる散水(胆沢平野)



胆沢ダムから約5,300万m3を補給
(補給期間 4/21～9/10)

“胆沢ダムが完成する前の運用だったら平成6年渇水の再来だった”

平成6年

—「水を回して」迫る訴えに涙—

【回想録】胆沢平野土地改良区(前)理事長佐々木宏

- 平成6年の干ばつでは、バキュームカーで北上川の水をくみ上げ、田んぼにまいたりした。前沢町方面へ見回りに行くと、30人ほどが道ばたに集まっている。何事かと車を止めると、急に土下座されました。涙ながらに、水を回して欲しいと訴えられたんです。もらい泣きしてしまいました。振り向くと農家の人が黙って手を合わせている、そんなことが何度もあった。
- また、水沢市の佐倉河地区を夜中に見回った時のこと。暗やみの向こうでカポッ、カポッという音がする。近寄ってみると農家の若いお嫁さんが、溝のくぼみにわずかに残る水を田にくみいれているのだった。

平成27年

—胆沢ダムが渇水被害を救う—

地元農家へのヒアリング結果

- 今年のような渇水であっても、胆沢ダムで十分な水量が確保され満足。
- 出穂時期、十分な水量で水不足の心配が無く安心感があった。
- 水量が確保されているので水田を見回る手間が7割ほど減った。
- 従前であれば今年間違いなく番水制で水管理を行っていた。



出典：青森のうまいものたち